■徳岡神泉　　京都写生派の流れに立った写実を発展させて独自な様式を確立し，戦後の日本画に大きな影響を与えた。
とくおかしんせん

白馬会・・・1896＝　　　京都上京の神泉苑近くで，代々地主で質業を営む徳岡庄太郎の次男に生まれる。母ルイ。本名時次郎。神泉苑は″京都の臍″とよばれ，かつての大内裏周辺官庁街の中の″御池″という由緒ある地で，まさに生粋の京都人として，恵まれて育つ。師になる竹内栖鳳も近くで生まれている。

教科書疑獄・1902＝ 6歳：上京区の教業尋常小学校に入学，

日露戦争終・1905＝ 9歳：

満鉄発足・・1906＝10歳：卒業し，同区の第一高等小学校に進む。

伊藤博文暗殺1909＝13歳：_土田麦僊の紹介で竹内栖鳳の画塾{竹杖会}に入門し，

韓国併合・・1910＝14歳：卒業，_京都市立美術工芸学校絵画科に入学。

大逆事件判決1911＝15歳：_早くも，1年校友会展で，「海老」が金牌を受け，

明治天皇没・1912＝16歳：2年校友会展で銀牌，

大正政変・・1913＝17歳：3年校友会展でも銀牌を受けるなど，_優秀な成績を修めて，

第一次大戦始1914＝18歳：_卒業。卒業制作「水汀(寒汀)」は学校買上げとなって，京都市立絵画専門学校へ進学し，

民本主義・・1916＝20歳：_文展に入選するのは当然とみなされて，「晩秋」をを出品するも落選，

ロシア革命・1917＝21歳：「筒井筒」を制作して，別科を修了。″俊成″と号して_続く，自身会心の作という「魚市場」，

本格政党内閣1918＝22歳：_「苗代」も落選。初めての挫折に精神的衝撃を受け，人目を避けるように，市内の寺を転々，参禅もする。

ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝23歳：_第1回日本画無名展に「雲の流れ」を出品して褒賞を受けるも，癒せず，放浪した末，富士に魅せられ，富士川町の岩渕の地に落着く。近くにいた心を病む若い母親をモデルに気魄に満ちた「狂女(白痴の女)」，

大暴落・・・1920＝24歳：岩渕の深沢長三郎の三女政子と結婚して，富士川町に住み，生地に因んで″神泉″と号する。「猫」がある。

原敬首相暗殺1921＝25歳：

水平社結成・1922＝26歳：長女房子が誕生。_異様なまでにディテールにこだわった「蓮」「椿」を制作，

関東大震災・1923＝27歳：富士川町に滞在していた日本美術院同人近藤浩一路に注目され，その奨めで，*関東大震災を期に京都へ帰り，初めからやり直すことを決意して，再び{竹杖会}に入会すると，

護憲三派圧勝1924＝28歳：福田平八郎ら近くの画家と交流する一方，中国宋元花鳥画や仏画を研究して，_「芥子」で新画境を見せ，

治安維持法・1925＝29歳：_帝展に「罌粟」を出品して，官展に初入選し，

円本時代始・1926＝30歳：第1回聖徳太子奉讃美術展に「紅椿」を出品し，入選。_続いて出品した「蓮池」が特選，

金融恐慌・・1927＝31歳：_「後苑雨後」，

世界恐慌・・1929＝33歳：_パリで開催された日本美術展に「暮秋」を出品。「鯉」が，再び特選となり，

海軍軍縮条約1930＝34歳：ベルリンでの日本現代画展国内プレ展示に「牡丹」を出品。*一気に，帝国美術院推薦(無鑑査)となって，自信を取り戻すものの，’絵らしい絵を描くようになってしまった’と不満を抱き，

満州事変・・1931＝35歳：

五一五事件・1932＝36歳：_以後は，民間の様々な展覧会への出品が中心になり，，

国際連盟脱退1933＝37歳：{竹杖会}第1回未公開大研究会に「松」を出品し鳳賞。_初の個展を開き「花鳥十二ケ月」シリーズを展示。

帝人疑獄事件1934＝38歳：案本一洋との二人展。大礼記念京都美術館開館記念京都市美術展に「麦」を出品し，京都市買上げ。

芥川直木賞始1935＝39歳：第2回個展を開催し，19点を展示。_改組帝国美術院においても無鑑査指定となるも，不出品が続くが，

二二六事件・1936＝40歳：父が死去。京都市立美術工芸学校絵画科教諭(4年間)。上村松篁ら京都画壇の中堅作家と評論家によって結成された研究会{水明会}に参加する。_その他の民間展覧会へは，連年多数の作品を出品し続け，

日中戦争始・1937＝41歳：母が死去。日本女子美術学校教授(3年間)。栖鳳門下の{竹立会}結成に参加し，第1回展に「南瓜」を出品。

健保+総動員 1938＝42歳：奥村土牛ら東京と京都の画家10名で結成された{井井会}の同人となり，「牡丹」「山雀」を出品。_第2回新文展の審査員をつとめるも，自身の出品予定の作品は未完成に終わり，出品できなかったが，

第二次大戦始1939＝43歳：奥村土牛，太田聴雨との3人展。福田平八郎，中村岳陵らと{蒼穹会}，山口華楊らと{九耀会}を結成。*第3回新文展に「菖蒲」を出品，絶賛されて文部省買上げとなり，のち，独自の神泉様式の萌芽とされる。

日米開戦・・1941＝45歳：国際文化振興会主催仏印巡回日本絵画展内示会に「盛夏」を出品。

・・・・・・1942＝46歳：日本画家報国会軍用機献納作品展に「緋鯉」出品。師竹内栖鳳が死去，門下の画塾統合の{第2竹杖会}参加。

創価学会検挙1943＝47歳：京都市美術展に「西瓜」を出品，審査員もつとめる。第6回新文展に_「芋図」を出品。

年金+総武装 1944＝48歳：続いて，京都市美術展の審査員となり，

敗戦・・・・1945＝49歳：帝展，新文展は日展となる。_戦後いちはやく再開された再開第1回京都市美術展に「伊予蜜柑」を出品。

新憲法公布・1946＝50歳：_第2回日展の審査員となり，以後連年つとめる一方，盛んになる多くの民間展覧会にも出品し続け，

新憲法施行・1947＝51歳：新憲法実施並びに東京都美術館開館20周年記念現代美術展に「干瓢」を出品。_第3回日展に出品した「赤松」は，神泉様式を決定づける傑作とされる。

極東裁判決・1948＝52歳：日本画の福田平八郎ら，洋画の小磯良平ら22名で{転石会}を結成し，第1回展に「八仙花」を出品。

朝鮮戦争始・1950＝54歳：関西総合美術展(旧大阪市展)の審査員(以後連年)。日展運営会参事。_第6回日展出品の「鯉」は政府買上，

独立回復・・1951＝55歳：朝日新聞主催の第2回選抜秀作美術展)に選ばれ，_「鯉」その他の諸作に対し，日本芸術院賞。

ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝56歳：久我五千男の主催による坂本繁二郎，福田平八郎，徳岡神泉の{草人社三人展}に「畠」出品。ヴェネツィア・ビエンナーレに，日本代表として，「鯉」「畠」を出品。国立近代美術館開館記念展「近代絵画の回顧と展望」に，既往作「菖蒲」「鯉」を出品。

TV放送始・・1953＝57歳：京都市立美術大学非常勤講師となる。ロンドンの日本大使館のために「杜若」を制作。第4回選抜秀作美術展に「畠」。_第8回日展出品の「池」で毎日美術賞と，一作ごとに画境を深化させて人々を驚かし，

自衛隊発足・1954＝58歳：既往作「赤松」「鯉」「池」「柳」を第5回選抜秀作美術展に特別出品。_「流れ」や，前年の「畠」，

55年体制始・1955＝59歳：国立近代美術館の{19人の作家}展に，既往作「鯉」「池」「畠」「実る豆」「柳」を出品。

国連加盟・・1956＝60歳：新_「赤松」，

なべ底不況・1957＝61歳：第8回選抜秀作美術展に，前々年日展出品の「薄」。日展運営会理事となる。_日本芸術院会員となる。

ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝62歳：第9回選抜秀作美術展に前々年日展出品の「赤松」。オーストラリア巡回展に「鯉」を，またヨーロッパ巡回現代日本画展に「畠」「池」の既往作を出品。社団法人日展(新日展)が発足し，理事に就任。_第1回新日展に出品「枯葉」など，すでに精妙を極めて定評のあった地塗りと対象とが溶解する世界を開き，

美智子妃・・1959＝63歳：清流会に出品した「筍」が第10回選抜秀作美術展。国立近代美術館{戦後の秀作展}に傑作「赤松」。

安保闘争・・1960＝64歳：第11回選抜秀作美術展に第1回新日展の「枯葉」。京都市文化保護法施行10周年記念に文化功労者表彰。

ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961＝65歳：宮内庁宮中納画「柳の図」制作。第4回新日展の審査員，_「仔鹿」は神泉様式の到達点を示す代表作となる。

全国総合計画1962＝66歳：第13回選抜秀作美術展に第3回新日展の「刈田」が選ばれる。

TV宇宙中継始1963＝67歳：{朝日新聞}の「新人国記～京都府」の挿絵を描く。_東京と大阪で，初の自選回顧展を開き，京都市立美術工芸学校1年の処女作からこの年までの自薦作品59点を展示して総括し，

東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝68歳：_{朝日新聞社}から回顧展を中心に編纂した画集「神泉」が刊行。その後も，多くの展覧会に出品し続け，

大学紛争始・1965＝69歳：兄が死去。中央公論社から刊行される谷崎潤一郎「新々訳源氏物語」巻五の挿図を制作。_第8回新日展に出品するため「富士山」を制作するが，迷った挙句出品を取りやめ，「富士」とともに，没後，公開される。

いざなぎ景気1966＝70歳：第9回新日展に「薄」を出品。*文化勲章を受け，文化功労者。体調の不安を訴えるようになるも，

霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝72歳：京都市立芸術大学非常勤講師を辞任。{朝日新聞}に連載の大佛次郎著「天皇の世紀」の挿絵を描く。練馬区豊玉に画室を建築，以後京都，東京を往き来してなお，_展覧会出品を続けたが，

ﾄﾞﾙｼｮｯｸ・・ 1971＝75歳：京都市美術館の{京都日本画の精華展}に，既往諸作品を出品。日展顧問となる。_制作も滞りがちとなり，京都丸物での蒼玄会に出品した「菊」が，最後の展覧会出品作となって，

日中国交回復1972＝76歳：病状悪化して入院し，尿毒症と腎不全によって，_没した。

京都国立近代美術館+読売新聞社編「生誕100年記念　徳岡神泉展」，